

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

学位申請者	白澤 舞【論文博士】 【比較社会文化学専攻 平成19年度生】 (平成26年3月31日 単位修得退学)	要 旨
論 文 題 目	トリシャ・ブラウン (Trisha Brown 1936-2017) 研究 —舞踊作品創作と一人ひとりの身体—	<p>トリシャ・ブラウンは、ジャドソン・ダンス・シアター(1962-64)の創設メンバーとして知られる。1970 年に自身の舞踊団 Trisha Brown Dance Company(以下 TBDC とする)を設立し、半世紀にわたり旺盛な舞踊作品の創作を続け、世界的に評価される振付家である。</p> <p>本研究では、ブラウンが初期の活動から継続して関心を抱き、舞踊作品創作において探求を続けてきたさまざまなキーワードの中から、彼女が一貫して舞踊作品において前面に打ち出してきたといわれる「身体」に注目した。ブラウンがどのように「身体」への関心を生じさせ、舞踊作品創作を通してどのように「身体」を探求し、どのような「身体」についての理解を得たのかを問題意識とし、彼女が作品創作過程や身体訓練においてダンサーの「身体」をどのように捉え、扱い、作品を生み出し続けたのかを通時的視点から包括的かつ実証的に検討することで、彼女の舞踊作品創作における理念の根幹に迫ることを目的とした。</p> <p>第一章では、ブラウンの生い立ちから様々なダンスや人との出会いと学びに着目し、彼女がどのように身体への探求心を育み、振付家として舞踊作品を創作するに至ったのかを検討した。第二章では、ブラウンの初期の実験的舞踊作品(1966-1979)について、実験的活動を通して彼女が獲得した身体に関する知識や技能と、顕わになった課題について検討した。第三章では、ブラウンの代表的作品《Set and Reset》(1983)を中心に、彼女が創始し振付家としての自己を確立させた創作手法の特徴を明らかにした。第四章では、TBDCの教育プログラムの参与観察から、ブラウンの創作手法を成立させるダンサーに、彼女がいかなる訓練を行い、どのような身体を求めたのかを検討した。</p> <p>以上から、1960 年代の初期の実験的作品から近年の劇場舞踊作品に至るまで、ブラウンにとって舞踊作品創作は、空間に存在する一人ひとりの人間の身体が、周囲の環境との関係のなかで、いかなる精神的・肉体的固有性を持ち、知覚し動いているのかを解明する探求であり、踊る者をも見る者をもその探求へと引き入れるよう提示する試みであったと結論づけている。</p>
審 査 委 員	(主査) 教授 猪崎 弥生	
	教授 水村 真由美	
	助教 福本 まあや	
	准教授 中野 裕考	
	助教 井上 登喜子	

